

今、注目される80年代エッセンス

一通りではない80年代

ここ数年シーズン、プレタポルテコレクションや、ストリートで1980年代の流行が登場しています。要因として80年代に青春を過ごした商品企画担当者が30代後半～40代の作り手リーダーとなること。またその仕掛けが、当時を知らないヤング層には新鮮な感覚に映ることなどが挙げられます。80年代の流行は下記のように変化しており、その切り口は多様です。

- 80年代前期 トラッドやアウトドアの流れをくむコンサバスタイルのファッションが主流。
- 中期 DCブランドが爆発的ブームになり、様々なデザインの遊びが試みられ、受容された。
- 後期 バブル時代で、ボディコンスーツやイタリアの高級インポートスーツが広がる。

表 1980年代ファッション年表

1980	JJファッション、プレッピー人気。ダウンウェア全盛。
1981	クリスタル族登場、マリンファッション流行。
1982	DC人気、カラス族出現。
1983	セクシーライン復活、ボロファッション話題に。ピンクハウス人気。
1984	オリーブファッション浮上、ボディコンジャスライン浮上。アンドロジナスファッション台頭、メンズDC登場。
1985	東京デザイナー協会発足(三宅一生ら32人)。
1986	ボディコン、ワンレングス大人気(ピンキー&ダイアン、ジュンコ・シマダブームに)。
1987	ヨーロッパアウトクチュール系ブランド人気(シャネル、エルメス、ヴィトン)。衣料品の輸入が激増。
1988	インポートブーム始まる(アルマーニ、クリイッツァ、ベルサーチ等)。渋谷浮上。
1989	ビームス、シッパスなど渋谷ブランド人気。DCブランド失速。

80年代に生まれた流行

- シルエット、アイテム等
ビッグジャケット、ワイドパンツ、オフショルダー、オフボディ等のゆったりとしたシルエット。ルーズでボリュームのあるシルエット。レイヤード(重ね着)。ボディコンシャス、かっちりとした肩のパワースーツ等。
- カラー
カジュアルに着る「黒」の登場と定着。蛍光色(テクノ感覚。スキーウェア等に多く見られた)、スモークパステル(グレー味の間景色)。

キーワードは「キッチュ感覚」

ファッションのコーディネートにおいて、上品な着こなしにあえて「悪趣味なもの」や「はずし」をプラスすることがおしゃれテクニックの一つです。80年代のファッションが注目されるのは、社会の閉塞感が続く現在において、エネルギーに前進していたあのころの楽しいパワーをもらいたいという願望からかも知れません。

キッチュ：悪趣味なもの。けばけばしい色彩、装飾過剰、安物っぽい素材などから連想されるイメージ。

事業化支援部 墨田支所

大橋健一 TEL 03-3624-4049

E-mail: oohashi.kenichi@iri-tokyo.jp

